

エコロジカルネットワークについて

エコロジカルネットワーク形成の展開について

- エコロジカルネットワーク形成の展開として、江川下流域とのネットワーク強化に向けた具体的な活動提案をいただきました。この提案を受けて、当面は維持管理環境管理専門委員会で検討を行うことになっています。
- 今後の検討の進め方について検討をお願いします。

2017年2月2日

「荒川太郎右衛門自然再生地区」と「江川下流域」の連携による

荒川エコロジカルネットワーク形成の展開について

- 荒川太郎右衛門地区自然再生事業 自然再生全体構想（平成18年）p36
5つの自然再生目標の4番目に位置づけられている
<IV. 荒川エコロジカルネットワークの形成>
- 荒川太郎右衛門地区自然再生事業 実施計画書（平成23年）p19
将来実施する施策等に関する検討に位置づけられる。
<周辺地域への広がり (1) エコロジカルネットワークの核の形成>
荒川太郎右衛門自然再生地が上流の荒川ビオトープと下流の三つ又沼ビオトープ、及び入間川や江川などの自然環境の「核」となるようネットワークをふまえて自然再生地における湿地環境のさらなる保全再生等の検討を進めていく。

- “サクラソウ群落”が荒川太郎右衛門地区自然再生事業の総合的な指標の一つに改めて位置づけられることから、江川下流域とのエコロジカルネットワークの強化に向けて以下の活動を提案したい。
- 1. 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会による江川下流域サクラソウトラスト地への観察会開催。
 - ・太郎右衛門地区へのサクラソウ群落再生を進めるために「たね地」や「生育環境モデル」となるトラスト地の観察会を今後適宜開催し、共通認識を深める。
- 2. 荒川太郎右衛門自然再生地区内の「サクラソウ群落再生適地」探し。
 - ・太郎右衛門地区内のサクラソウ群落再生地を自然環境の条件と、多くの人々へのアピールのしやすさや盗掘防止等の社会的な条件の両方から検討し、複数カ所の適地選定を行う。
- 3. サクラソウ群落再生の移植対象となる植物を決めて里親等による「市民参加型の自然再生地づくり」の推進。
 - ・サクラソウだけではなく、ノウルシ、チョウジソウ、ハナムグラ、ノハナショウブ等のふさわしい湿性植物群落の対象種を選び、種子や実生等の採取と育成、再生適地への植栽や管理等を通じた「サクラソウ群落再生地づくり」を市民や学校、企業等の参加による活動として進める。

上記した一連の取り組みを効果的に展開するためには、活動計画の作成が必要となる。